

葛巻町立小中学校児童生徒数

(平成14年11月1日現在)

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
小学校	葛巻	39	24	30	33	30	28	184
	江刈川	2		3	1	3		9
	小屋瀬	2	5	8	6	15	12	48
	小田	1	5		4	5	7	22
	星野	3	5	6	1	7	2	24
	吉ヶ沢	1	3	3	2	3	5	17
	江刈	8	8	11	9	12	8	56
	五日市	6	7	10	10	9	15	57
	馬淵	4	4	4	4	5	4	25
	冬部	3	2	3		2	1	11
	田野		3	3	4	3	2	15
	計	69	66	81	74	94	84	468
中学校	葛巻	43	37	47				127
	小屋瀬	10	17	21				48
	江刈	17	33	30				80
	計	70	87	98				255

町民バスの運行を 考えてほしい

【要望】(バス路線の廃止や学校統合を視野に入れ) 通院バスやスクールバス、一般利用を一緒にして、町民バスの運行を考えるべきではないか。

【回答】平成十七年度には、北部四小学校(小田、田野、冬部、星野)、江刈川分校が葛巻小学校と統合する方向で地区の皆さんと話し合いを進めています。

町では、少子高齢化の時代背景から、コスト面や効率的なバス運行を進めるため、理想的には(ご指摘のような)町民バスを運行する方向で、今後検討していきたいと考えています。

夜間照明の整備で 学校施設の有効活用を

【要望】統合後の学校施設の有効活用を進めるため、夜間照明設備を整備してほしい。

【回答】町内六地区にある体育振興会の活動を活発にしようという観点から、地区単位に一施設の夜間照明を整備する予定です。

本年度は、冬部、小屋瀬、五日市の三小学校と、江刈中学校に設置する計画となっています。

ほかの地区の学校施設については、利用効果などを考慮しながら、検討していきたいと考えていますので、ご理解ください。

少子化で考えられること

本町の人口は、昭和35年の15,964人をピークに減少を続け、平成12年の国勢調査では8,725人となっています。年間の出生数も昭和30年には584人であったものが、ここ数年は50人前後で推移。ピーク時の10分の1以下という状況です。このような状況にあって、学校の小規模化が一層進むと考えられますが、子どもたちが一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばせるよう適正規模の学校配置など、教育環境の見直しが重要な課題です。

少子化が教育に及ぼす影響

(中央審議会まとめ)

少子化が進むと、一般的に次のようなことが心配されると言われています。

- ① 子ども同士の切磋琢磨の機会が少なくなる。
- ② 子どもに対する親の過保護や過干渉を招きやすくなる。
- ③ 子育てについての経験や知恵の伝承、共有が困難になる。
- ④ 学校や地域で一定規模の集団で行う教育活動(学校行事や部活動、地域の伝統行事など)が成立しにくくなる。
- ⑤ よい意味での「競争心」が希薄になる。

小規模校の学校運営上のメリット

(総務庁行政監察局まとめ)

左上の表で分かるように、葛巻小学校と葛巻中学校を除いた学校の児童生徒数は100人を割っています。このような小規模校では、次のようなメリットがあると言われています。

- ① 教員が児童生徒一人ひとりの特性を把握し、個別に指導することができる。
- ② 心のかような生徒指導ができ、非行や問題行動が少ない。
- ③ 児童数に比し、施設・設備に恵まれている。
- ④ 学校行事での出場機会が多く、参加意識が高まる。